

計画期間:令和2年4月～令和7年3月(5年0月)

・ 中心市街地全体に係る評価

1. 令和2年度終了時点(令和3年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、第1期計画（平成22年11月～平成26年度）において、川西能勢口駅周辺の商業施設のリニューアル、イベントの実施などを行い、第2期計画（平成27年度～令和元年度）では、中央北地区特定土地地区画整理事業によりキセラ川西せせらぎ公園、文化ホールや福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設、民間の大型商業施設などのキセラ川西地区の整備を進めてきた。第3期計画では、川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区の回遊性の向上や、働く場所や魅力的な場所を増やすことで様々な人が活躍する中心市街地を創造し、持続可能なにぎわいにつなげることを目標としている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、実施できなかった事業も多々あったが、令和4年9月開院予定の（仮称）市立総合医療センターキセラ川西センターの整備や令和4年に竣工予定である花屋敷団地建替事業は順調に進んでいる。また、2つの民間マンション（計102戸の予定）の建設も令和3年度中に完成予定であることから、今後は更に居住ニーズが高まると考えられる。

川西能勢口駅周辺では、川西市中心市街地活性化協議会が道路管理者と連携し、川西能勢口駅北側デッキをイベント活用する社会実験を行ったところ、歩行者動線が安全に確保できることや滞留人数及び滞留時間が増加することが分かった。また、通りすがりの人がアクティビティに参加するなど、来街者同士の交流を生み出すことも分かった。令和3年度には、継続して社会実験を計10回行い、開放空間におけるwithコロナ時代の新たなにぎわいづくりとして、適した活用方法の検討を行っていく。

また川西能勢口駅東側の藤ノ木さんかく広場では、イベントの利用が前年の半分ほどの25件に留まったものの、キッチンカーが日常的に出店を行うことで、一定のにぎわいを創出できた。さらに、中心市街地活性化協議会がキッチンカーを用いたスタートアップ支援を行い、まちのプレイヤーづくりに努めたところ、2件の利用実績があった。令和3年度には、キッチンカーの出店をキセラ川西せせらぎ公園にも拡大し、中心市街地全体のにぎわいづくりにつなげていく。

今後は、川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区の2つのにぎわいの核を結ぶため、中心市街地案内サイン板設置事業や交通利便性の向上に向けた検討などを進めるとともに、新規出店や新規起業者を増やす各事業を推進し、中心市街地の回遊性と魅力を向上し、様々な人が活躍するまちとしての発展をめざしていく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度3月31日、単位：人)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
人口	8801	8769	8763				
人口増減数	64	-32	-6				
自然増減数	0	-57	-46				
社会増減数	58	33	32				
転入者数	458	395	403				

(2) 年間販売額(小売業)

(単位：百万円)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体							
中心市街地							

現時点での最新値が「経済センサス活動調査(平成28年度)のため、記載不可。

(3) 商店数(小売業)

(単位：件)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体							
中心市街地							

現時点での最新値が「経済センサス活動調査(平成28年度)のため、記載不可。

(4) 事業所数(宿泊業・飲食サービス業)

(単位：件)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
市全体							
中心市街地							

現時点での最新値が「経済センサス活動調査(平成28年度)のため、記載不可。

(5) 地価(単位：円/m²)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
相 続 税 路線価平均	-	-	238,750				
アステ川西 東 側	340,000	380,000	420,000				
県道12号線 川西市役所 西交差点北	210,000	215,000	235,000				
川西市役所前 交 差 点 北	165,000	170,000	185,000				
豊川橋山手線 (オアシスタ ウン南)	-	-	115,000				
地価公示平均	359,000	394,000	430,000				
川西 5-1	445,000	500,000	550,000				
川西 5-4	273,000	288,000	310,000				

調査基準日：各年1月1日、公表：地価公示3月下旬、相続税路線価：7月1日

豊川橋山手線(オアシスタウン南)の相続税路線価：平成30年度及び令和元年度は路線価算定対象外。

2. 令和2年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、基本計画に位置付けるイベント事業の実施を見送らざるを得ない状況となった。川西市中心市街地活性化協議会は、このような状況下においても実施可能な活性化事業について、関係団体等と協議・調整を重ねながら、提案や実施を行ってきた。

中心市街地の現況としては、(仮称)市立総合医療センターキセラ川西センターや花屋敷団地の建替、民間マンションの建設が順調に進んでおり、今後は居住ニーズの向上やにぎわいに繋がっていくと考えられる。

また、飲食店などの新規出店数が大幅に増え、流行をとらえた業態が出店することで中心市街地の魅力は高まっていると考えられる。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、歩行者・自転車通行量(休日)は昨年度よりも大幅に減少しており、川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区への来街者数に大きな打撃を与えた。中心市街地全体としても小売業やサービス業、飲食業は外出自粛の影響を受けて経営が厳しい状況にある。また、大規模イベントの実施も厳しい状況が続くと考えている。

今後は、川西市の玄関口としてふさわしいwithコロナ時代の新たなにぎわいのあり方を模索しつつ、官民一体となって、中心市街地の活性化に取り組む所存である。

．目標ごとのフォローアップ結果

1．目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
恒常的なぎわいが生まれる持続可能なまちを創造する	歩行者・自転車通行量(休日)	44,177人/日 (H30)	46,547人/日 (R6)	36,687人/日 (R2)	C	-	
	中心市街地の居住人口の社会増	126人/年 (H27-30平均)	194人/年 (R2-6平均)	32人/年 (R2-6平均)	C	-	
魅力ある場所や、活躍する人が生まれるまちを創造する	新規起業者数	4人/年 (H30)	22人/年 (R6)	7人/年 (R2)	B	-	
	新規出店数	5店/年 (H30)	23店/年 (R6)	24店/年 (R2)	A	-	

< 基準値からの改善状況 >

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

目標達成が見込まれる 目標達成が見込まれない

関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2．目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量(休日)」は、川西能勢口駅と川西池田駅の乗り換えや駅前商業施設をつなぐアステ川西南側の歩行者デッキと川西能勢口駅南の歩行者デッキは、例年最も歩行者通行量が多くなるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出控えから減少している。令和3年度以降、新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、歩行者数は増加していくと見込んでいる。また、新たにキセラ川西地区に追加した2地点は、令和4年9月に開院予定の(仮称)市立総合医療センターキセラ川西センターの整備や民間マンションの建設が順調に進んでおり、今後通行量が増加することで、目標達成は可能と見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増」は、令和3年度には、花屋敷団地建替事業や民間マンションが完成し、中心市街地への転入による社会増が増加することで、目標達成は可能と見込まれる。

「新規起業者数」は、令和3年度には、新型コロナウイルス感染症拡大により中止していたコワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業などの事業を実施していくため、新規起業者数はさらに増加し、目標達成は可能と見込まれる。

「新規出店数」は、令和2年度に目標が達成しているが、令和3年度には、新型コロナウイルス感染症拡大により中止していたコワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業などの事業を実施していくため、新規出店数はさらに増加し、引き続き目標を達成すると見込んでいる。

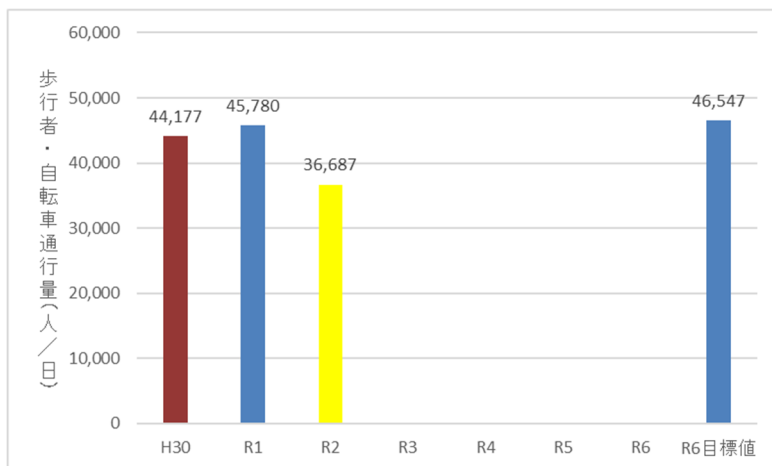
3 . 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

初年度のフォローアップのため、記入事項はなし。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者・自転車通行量(休日)」 目標設定の考え方認定基本計画 P.75～P.79 参照

調査結果と分析



年	(単位)
H30	44,177 人/日 (基準年値)
R1	45,780 人/日 (計画前年度)
R2	36,687 人/日
R3	
R4	
R5	
R6	46,547 人/日 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査

調査月：毎年10月実施

調査主体：川西市中心市街地活性化協議会

調査対象：中心市街地における休日6地点の歩行者及び自転車数

【歩行者・自転車通行量調査地点】



(単位：人/日)

	平成30年度 (基準年)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)
地点	11,120	11,220	9,162				
地点	20,924	20,547	17,751				
地点	2,039	2,718	2,832				
地点	1,934	2,847	2,544				
地点	-	-	1,953				
地点	-	-	2,445				
合計	36,017	37,332	36,687				

地点、地点は令和2年度から新たに追加したため、平成30年度と令和元年度は空白。

分析内容

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業の進捗は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、一部事業を実施できないものもあったが、概ね予定どおり進んでいる。

地点・は、川西池田駅と川西能勢口駅をつなぐ地点であるため、例年最も多くなる地点であるが、大幅に人数が減少している。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、人々が外出を控えていることが大きな原因であると考えられる。

地点・は、キセラ川西地区の活性化の状況を測るため、令和2年度から新規追加した地点である。今後、キセラ川西地区において(仮称)市立総合医療センターキセラ川西センターの整備や民間マンションの建設が進むことから、歩行者・自転車通行量は増加していくことが見込まれる。

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・51：グリーンスローモビリティ導入事業(民間事業者、川西市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区の回遊性向上を図るために、グリーンスローモビリティの運行について検討する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年度は、市内公共交通に係る検討と協調したスケジュール調整や使用車両を検討し、市内タクシー、バス等の関係事業者との情報交換を行った。
事業の今後について	市内公共交通に係る検討と協調して進める必要があるため、地域公共交通会議での事業計画の策定等の審議や交通事業者との調整を行う予定としている。

. 6 : (仮称)市立総合医療センターキセラ川西センター整備事業(民間事業者、川西市)

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【実施中】
事業概要	将来にわたり、市民に安心して安全な医療を提供していくため、市北部から市立川西病院を移設する。その結果としてキセラ川西地区の都市機能が増進することで、安心して暮らせるまちを創造する。
国の支援措置名及び支援期間	公立病院の再編・ネットワーク化に関する財政措置(総務省)(令和2年度～令和4年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	新病院の建築工事については、令和2年10月に着工している。着工後、高層部の工事、基礎・免震層・1～5階躯体工事、内外部仕上工事の一部を行った。令和2年度末時点では、工程表通りに工事は進捗している状況である。
事業の今後について	令和4年9月の開院に向けて、建築工事は滞りなく進んでおり、医療機器および電子カルテ等の導入についても今後計画どおりに進めていく予定である。

. 10:花屋敷団地建替事業(川西市)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進む花屋敷団地の建て替えを行い、魅力的な景観など、住環境を向上させることで新たな居住者が入居し、定住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(地域住宅計画に基づく事業(公営住宅等整備事業))(国土交通省)(令和元年度～)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和元年より新団地の設計及び解体工事を行い、令和2年2月頃から建替工事を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、当初の計画どおり順調に進んでいる。
事業の今後について	第1期の建替工事が令和3年6月に完了予定であり、引き続き、入居者の1次本移転を開始する。令和3年10月頃から、既存団地の解体工事を進めていく予定である。

. 11:民間マンション建設事業(民間事業者)

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の未利用地に民間のマンションが整備されることで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年夏頃からキセラ川西地区で新たに2つの民間マンションの建設が始まり、順調に工事は進んでいる。合計で102戸が完成する予定である。
事業の今後について	2つの民間マンションは、令和3年1月下旬には竣工予定であり、

いて	2月下旬より居住予定者へ引渡される予定である。今後は居住者の増加により、にぎわいの創出が期待される。
----	--

.25: 藤ノ木さんかく広場北側ポケットパーク活用事業(民間事業者、中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	道路管理者と連携し、藤ノ木さんかく広場と隣接しているポケットパークを広場の利用と合わせて一体的に活用することで相乗的なにぎわい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、藤ノ木さんかく広場北側ポケットパークの活用を検討するためのイベントは実施できなかった。
事業の今後について	令和3年度は、今後の活用方法について、川西市中心市街地活性化協議会と道路管理者が弾力的な道路占用の許可条件について協議を進めていく。

.24: ペDESTリアンデッキにぎわい活用事業(民間事業者、中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	道路管理者と連携し、歩行者は多いもののこれまで有効活用されていなかった川西能勢口駅と駅前商業施設をつなぐ道路空間でにぎわいイベントを実施することで、周辺施設への集客や来街者の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	デッキ上の地点、では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、基準値よりも低い数値となった。川西市中心市街地活性化協議会が歩行者・通行量調査時に川西能勢口駅北側デッキを活用する社会実験を行ったところ、通常時より滞留人数や滞留時間が増加する効果があった。
事業の今後について	令和3年度は、川西市中心市街地活性化協議会が「駅前ピクニックマルシェ」と題し、社会実験を計10回開催予定である。この社会実験を通して、今後のペDESTリアンデッキの活用方法について、道路管理者と弾力的な道路占用の許可条件について協議を進めていく。

目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者・自転車通行量の増加に向けた事業について、主要事業は概ね予定通り進んでいるが、一部実施できていない事業もある。歩行者・自転車通行量は、新型コロナウイルス感染症拡大の

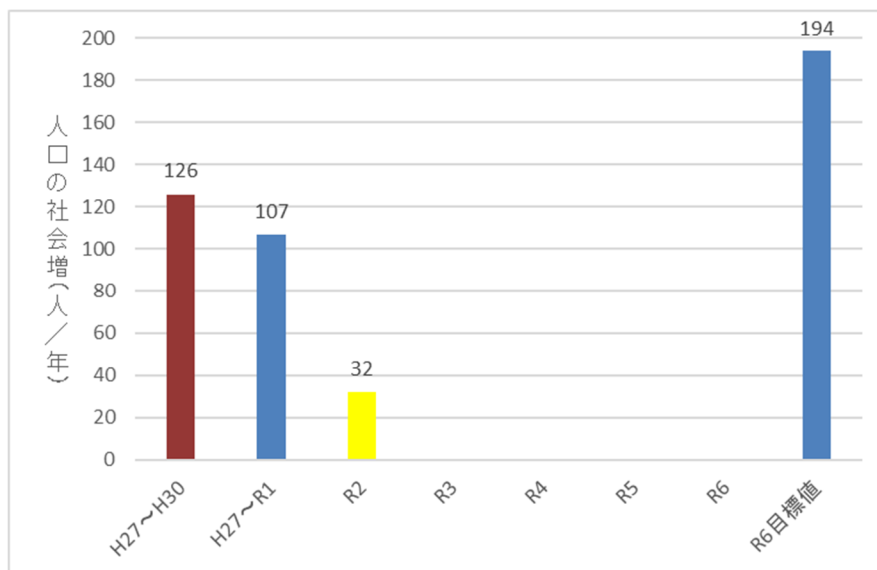
影響もあり、全体的に大幅に減少している。特に減少している地点 ・ では、令和3年度にペDESTリアンデッキを活用したイベントを継続的に社会実験として行っていくことにより、駅前のにぎわいの創出につなげ、歩行者通行量の増加につなげていく。

また、川西能勢口駅前とキセラ川西地区をつなぐ地点 ・ では、歩行者通行量は減少している一方、自転車通行量は微増している。

今後の対策としては、川西能勢口駅前とキセラ川西地区をつなぐエリアに新規出店を増やすことや（仮称）市立総合医療センターキセラ川西センター整備、中心市街地案内サイン板設置事業や交通利便性の向上に向けた検討に取り組むことにより回遊性の向上を目指していく。

（2）「中心市街地の居住人口の社会増」 目標設定の考え方認定基本計画 P.80～P.81
参照

調査結果と分析



年	（単位）
H30	126 人/年 （H27～H30 平均） （基準年値）
R1	107 人/年 （H27～R1 平均） （計画前年度）
R2	32 人/年 （R2～R6 平均）
R3	
R4	
R5	
R6	194 人/年 （R2～R6 平均） （目標値）

調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口社会増を集計
調査月：毎年3月31日現在
調査主体：川西市
調査対象：中心市街地エリア

分析内容

中心市街地の居住人口の社会増に向けた各事業については、概ね予定通り進んでいるが、人口の社会増は基準値を下回る結果となった。対象10地域を地域別に分けて傾向をみると、火打1丁目が最も大きな社会増を計上しており、キセラ川西地区で民間の賃貸マンションが完成したことが要因と考えられる。これまでのキセラ川西地区の開発や（仮称）市立総合医療センターキセラ川西センターの整備が進んでおり、社会資本の充実が、住みたい、住み続けたいと思える地域としてのイメージアップにもつながっていると考えられる。

令和3年度には、花屋敷団地建替事業や民間マンションが完成することで、転入者が増加し、社会増が増加することが見込まれる。

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

. 10: 花屋敷団地建替事業（川西市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進む花屋敷団地の建て替えを行い、魅力的な景観など、住環境を向上させることで新たな居住者が入居し、定住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公営住宅等整備事業））（国土交通省）（令和元年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和元年より新団地の設計及び解体工事を行い、令和2年2月頃から建替工事を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、当初の計画どおり順調に進んでいる。
事業の今後について	第1期の建替工事が令和3年6月に完了予定であり、引き続き、入居者の1次本移転を開始する。令和3年10月頃から、既存団地の解体工事を進めていく予定である。

. 11: 民間マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の未利用地に民間のマンションが整備されることで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和2年夏頃からキセラ川西地区で新たに2つの民間マンションの建設が始まり、順調に工事は進んでいる。合計で102戸が完成する予定である。
事業の今後について	2つの民間マンションは、令和3年1月下旬には竣工予定であり、2月下旬より居住予定者へ引渡される予定である。今後は居住者の増加により、にぎわいの創出が期待される。

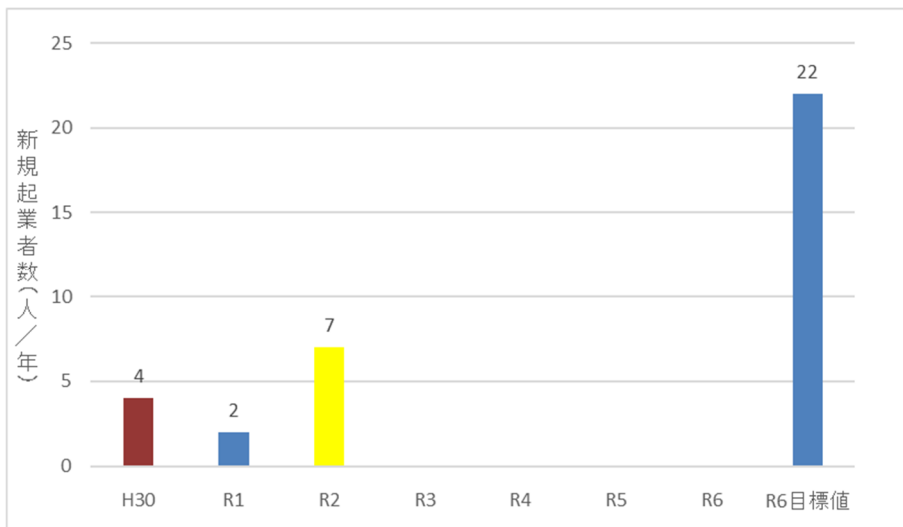
目標達成の見通し及び今後の対策

人口の社会増に向けた主要事業は概ね予定通り進捗しているが、基準値及び計画前年度までの平均値を上回ることができなかった。

令和3年度には、花屋敷団地建替事業の第1期の建替工事が令和3年6月に完了予定であり、花屋敷1丁目の市内転居者が増加することが予想される。また、キセラ川西地区に建設中の2つの民間マンションが令和3年1月下旬に竣工予定であり、2月下旬より居住予定者へ引渡される予定であることから、火打1丁目に転入者が増加することが見込まれ、目標は達成され则认为ている。

(3)「新規起業家数」 目標設定の考え方認定基本計画 P.82～P.83 参照

調査結果と分析



年	(単位)
H30	4人 (基準年値)
R1	2人 (計画前年度)
R2	7人
R3	
R4	
R5	
R6	22人 (目標値)

調査方法： 経済センサスによる調査、市及び市商工会での聞き取り調査

調査月： 毎年3月31日現在

調査主体： 川西市

調査対象： 中心市街地エリアにおける小売業及び宿泊・飲食サービス業で新規に起業した者

分析内容

新規起業家数の増加に向けた各事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送った事業が多くあり、目標値の半数にも満たなかった。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による「働き方」の変容から、起業について考える機会が増え、起業セミナーも受講生が増加したと考えられる。今後、コワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業を実施することで、さらに起業家が増えることが予想される。

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

. 21: コワーキングスペース運営支援事業（民間事業者、川西市）

事業実施期間	令和2年度～【未実施】
事業概要	起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場を提供することで、市内での起業を増やすなど、まちに新たな仕事を創出し、中心市街地の活力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（総務省）(令和2年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の実施を見送った。
事業の今後について	令和3年度に、コワーキングスペースの開設を希望する者で、兵庫県の補助金である「コワーキングスペース開設支援事業」の補助事業に採択された者に対して、開設経費や家賃の一部を補助し、新たな起業家の発掘と継続につなげていく。

. 13: 中心市街地空き店舗等出店支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【未実施】
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対し、開店の支援を行うとともに、事業が継続できるよう家賃の一部の補助を行うことで、中心市街地に魅力的な店舗を呼び込む。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の実施を見送った。
事業の今後について	令和3年度から、中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、新規出店の際の改装費や開店後6か月経過後に1年分の家賃の一部を補助し、新規起業者数の増加につなげていく。

. 14: 中心市街地起業者支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに起業する者、起業間もない者に対し、セミナーの実施や、悩み相談などのフォローアップを行うことで、事業継続への支援を行い、まちで活躍する人を育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（総務省）（令和2年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインを活用したセミナーが中心となったが、19名の塾生がセミナーを通じて起業に必要な知識を身に付けた。
事業の今後について	引き続き起業セミナーを開催し、起業を希望する者の支援を行っていく。また、過去の塾生を対象としたスキルアップセミナーやフォローアップ面談を行うことで、新規起業者の増加につなげていく。

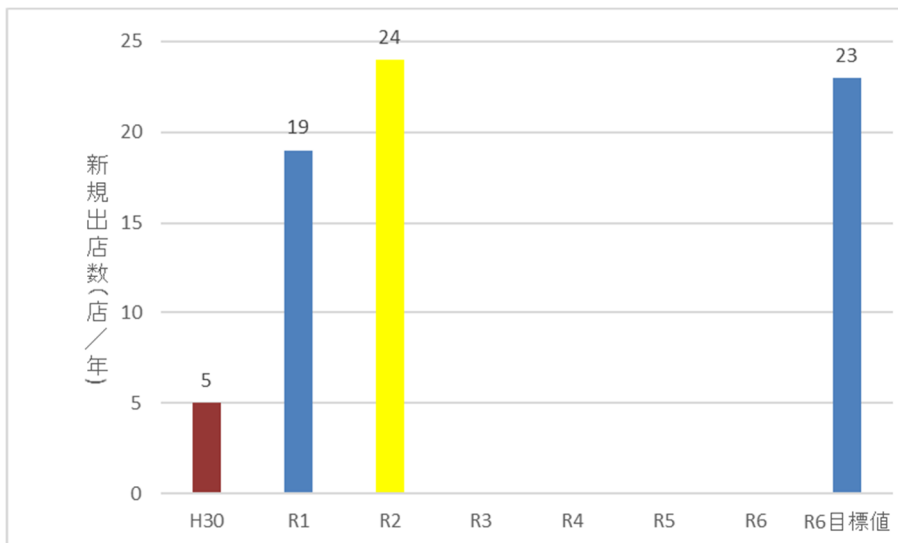
目標達成の見通し及び今後の対策

実施予定だったコワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかった。しかし、市や商工会で実施した起業支援事業セミナーを通じて10人弱の新規起業者が誕生した。

今後は、引き続き、市及び商工会で起業支援を継続して行うとともに、令和3年度に実施予定であるコワーキングスペース運営支援事業及び中心市街地空き店舗等出店支援事業を進めていき、更なる新規起業者数の増加を目指し、中心市街地が新たな活力が生まれる場所、育まれる環境となるよう努めていく。

(3) 「新規出店数」 目標設定の考え方認定基本計画 P.84～P.85 参照

調査結果と分析



年	(単位)
H30	5店 (基準年値)
R1	19店 (計画前年度)
R2	24店
R3	
R4	
R5	
R6	23店 (目標値)

調査方法：川西市商工会及び川西市中心市街地活性化協議会への聞き取り調査及び目視調査
 調査月：毎年3月31日現在
 調査主体：川西市
 調査対象：中心市街地エリアにおける小売業及び宿泊・飲食サービス業で新規に出店した者

分析内容

新規出店数の増加に向けた各事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送った主要事業が多くあるが、中心市街地で多くの新規出店があり、目標を達成できた。令和3年度には、コワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業を実施していくことで、新規出店する者が増加していくと予想される。

目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・21:コワーキングスペース運営支援事業(民間事業者、川西市)

事業実施期間	令和2年度～【未実施】
事業概要	起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場を提供することで、市内での起業を増やすなど、まちに新たな仕事を創出し、中心市街地の活力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金(総務省)(令和2年度～令和3年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の実施を見送った。
事業の今後について	令和3年度に、コワーキングスペースの開設を希望する者で、兵庫県補助金である「コワーキングスペース開設支援事業」の補助事業に採択された者に対して、開設経費や家賃の一部補助を実施し、新たな起業者を発掘し、中心市街地エリアの新規出店にもつなげて

	いく。
--	-----

. 13: 中心市街地空き店舗等出店支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【未実施】
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対し、開店の支援を行うとともに、事業が継続できるよう家賃の一部の補助を行うことで、中心市街地に魅力的な店舗を呼び込む。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の実施を見送った。
事業の今後について	令和3年度から、中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、新規出店の際の改装費や開店後6か月経過後に1年分の家賃の一部を補助し、新規出店数の増加につなげていく。

. 14: 中心市街地起業家支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに起業する者、起業間もない者に対し、セミナーの実施や、悩み相談などのフォローアップを行うことで、事業継続への支援を行い、まちで活躍する人を育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（総務省）（令和2年） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインを活用したセミナーが中心となったが、19名の塾生がセミナーを通じて起業に必要な知識を身に付けた。
事業の今後について	引き続き起業セミナーを開催し、起業を希望する者の支援を行っていく。また、過去の塾生を対象としたスキルアップセミナーやフォローアップ面談を行うことで、新規出店数の増加につなげていく。

目標達成の見通し及び今後の対策

実施予定だったコワーキングスペース運営支援事業や中心市街地空き店舗等出店支援事業が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかったが、中心市街地内の出店の流動性は高まりをみせており、すでに目標を達成する24件の新規出店があった。

引き続き、市や商工会で起業支援事業を継続して行うとともに、令和3年度に実施予定であるコワーキングスペース運営支援事業及び中心市街地空き店舗等出店支援事業を通じて、更なる新規出店数の増加につなげていく。